

【経営学研究科】

修了認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

1. 修士課程においては、経営学分野における高い専門性と倫理観、社会に貢献する力、国際的視野を持った研究者又は高度専門職業人の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、本研究科の定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文の審査並びに最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士(経営学)の学位を授与する。

- (1) 経営学及びその関連分野についての高度な専門知識。
- (2) 経営学及びその関連分野における研究能力。
- (3) 修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、自ら課題を発見・設定し、解決する能力。
- (4) 正しい倫理観を持ちつつ、修得した高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、積極的に他専門分野あるいは異文化に属する人々と協働できる能力。

2. 専門職学位課程においては、技術経営分野における高い実践的な専門性と倫理観、社会に貢献する力、国際的視野を持ち、社会(産業界等)の急速な変化に敏速かつ革新的に対応し、社会を牽引することができる高度専門職業人を養成することを目的とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、本研究科で定める所定の単位を修得した学生に対して修了を認定し、技術経営修士(専門職)の学位を授与する。

- (1) 技術経営及びその関連分野についての高度な実践的専門知識。
- (2) イノベーションに関する課題を発見し、その原因やメカニズムを解明し、解決策を体系的に提案することができる能力。
- (3) 修得した高度な実践的専門知識・能力と教養をもとに、高い倫理観と国際的視野を持って、実務の現場で活躍することができる能力。

3. 博士後期課程においては、創造性豊かな優れた研究・開発能力と倫理観、社会に貢献する力を持ち、あらゆる研究・教育機関の中核を担う研究者等の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、本研究科で定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、試験、学力確認のための試問に合格した学生に対して修了を認定し、博士(経営学)の学位を授与する。

- (1) 経営学及びその関連分野についての極めて高度な専門知識。
- (2) 経営学及びその関連分野について研究者として自立して研究活動を行う能力。
- (3) 修得した極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、自ら課題を発見・設定し、独創的に解決する能力。
- (4) 正しい倫理観を持ちつつ、修得した極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、専門性を要する分野において、積極的に他専門分野あるいは異文化に属する人々と協働できる能力。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「研究指導」により、本研究科で定める目的を実現するための教育課程を編成する。

- (1) 「専門科目」では、より高度な専門的知識を身に付けるため、特論、演習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。
- (2) 「一般教養科目」では、正しい倫理観と、幅広くかつ深い学識を涵養する授業科目、コミュニケーション能力・国際性等を養う授業科目を配置する。
- (3) 研究指導の過程では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、研究者又は高度職業人として国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する教育を行う。

2. 専門職学位課程においては、修了認定・学位授与の方針に掲げる人材の養成を実現するため、『東京理科大学専門職大学院教育課程連携協議会』と連携し、社会のニーズやシーズに応えるとともに、学生個々のキャリアパスや能力に応じて、学修目的を達成するための個別学修プログラムを策定することが可能な教育課程を編成・実施する。

- (1) 課程の人材育成に関する目的に基づき、教育領域 8 領域(開発的知見教育領域、革新的知見教育領域、起業的知見教育領域、経営的知見教育領域、産業的知見教育領域、経済的知見教育領域、金融的知見教育領域、統制的知見教育領域)を設けて、授業科目を開発する。科目は「基盤科目」、「専門科目」、「社会連携科目」及び「演習科目」に区分し、授業科目を効果的に配置し、教育課程を編成・実施する。
- (2) 「基盤科目」では、技術とマネジメントを融合させる上で、「専門科目」、「社会連携科目」及び「演習科目」での学修や演習を進めていく際に基盤となる授業科目を配置する。
- (3) 「専門科目」及び「社会連携科目」では、修了認定・学位授与の方針の到達に合致する高度で最新の実践的専門知識を段階的に身に付けるため、教育領域 8 領域の 1 領域又は複数領域の知見を重点的且つ効果的に修得することを可能とする授業科目を、8 領域のバランスを考慮し、配置する。
- (4) 「演習科目」では、人材育成に関する目的を踏まえた学生個別の目的を達するために、著名な学識者や企業経営者等による講演の聴講、実践の理論化、企業等への調査活動、経営者等への各種インタビュー等を実施し、問題発見・原

因解明・施策構想・解決実践に関連する能力を総合的に養成するとともに、高度専門職業人として国内外で国際的な視点を持って活躍できる能力を養成する授業科目を、実践教育の質を高めるために配置する。

3. 博士後期課程においては、修士課程で養った高度な専門的知識や研究開発能力を基礎として、さらに「研究指導」「一般教養科目」により本研究科で定める目的を実現するための教育課程を編成する。

(1)研究指導の過程では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、専門分野に関して自立した高度職業人として、国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する教育を行う。

(2)「一般教養科目」では、自立した研究者又は高度職業人として研究開発を遂行していくために必要な深い学識と倫理観、汎用的能力を涵養する授業科目を配置する。

入学受入れの方針【アドミッション・ポリシー】

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

1.修士課程においては、学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養をもとに、専門分野で自ら課題を発見し解決する研究意欲のある人、研究者又は高度職業人に必要な能力の修得を目指す人、主体的に多様な人々と協働して研究を行う意欲のある人。

2.専門職学位課程においては、主に学士課程、修士課程又は博士後期課程を卒業・修了後に一定の実務経験又はその経験と同等である優秀な業績を有し、大学での学習分野とキャリアパスの特徴を問わず優れた素質を有する人。

3.博士後期課程においては、修士課程や専門職学位課程までに修得した専門知識と研究能力をもとに、自立して創造的研究を行う意欲のある人。

4.専門知識や教養をもとに、社会において国際的な視野を持って活躍しようとする意欲のある人。

を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(一般入学試験)

【修士課程及び博士後期課程】

本研究科の特性に見合う専門知識、英語力、思考力及び表現力をもち、自ら研究を行う態度のある人を、修士課程においては書類審査、筆記試験(経営及び関連分野の専門科目、外国語)、資格・検定試験の成績、面接等により選抜し、博士後期課程においては、書類審査、筆記試験(経営及び関連分野の専門科目、外国語)、修士論文についての口頭試問等により選抜する。

【専門職学位課程】

多様性の確保に重点を置き、大学での専攻分野を問わず、本研究科の特性に見合う実践知を含む専門能力、分析力、論理力、思考・発想力、マネジメント力及び表現力で優れた素養をもち、本課程の人材育成に関する目的を理解する人を書類審査、面接等により選抜する。

(推薦入学試験)

修士課程において、本学の各研究科・専攻の特性に見合う専門知識、英語力、思考力及び表現力をもち、自ら研究を行う態度のある人を、書類審査、小論文、面接等により選抜する。

(社会人特別選抜、外国人留学生入学試験)

【修士課程及び博士後期課程】

研究機関又は企業等で得た経験、学問に対する姿勢や考え方、海外で身に付けた能力を持つ人を、修士課程においては、書類審査、筆記試験(経営及び関連分野の専門科目、外国語)、面接等により選抜する。

博士後期課程においては、書類審査、筆記試験(経営及び関連分野の専門科目、外国語)、修士論文についての口頭試問等により選抜する。

(企業推薦型特別入学選考)

【専門職学位課程】

企業又は職能団体等が本課程の人材育成に関する目的及び各種方針に賛同し、企業又は職能団体等が優秀と認める人材であり、高度な実践知を含む専門能力、分析力、論理力、思考・発想力、マネジメント力及び表現力で優れた素養をもち、本課程の人材育成に関する目的を理解する人を、書類審査、面接等により選考する。